

「たちすずか」 WCS を混合した発酵 TMR による 黒毛和種去勢牛の短期肥育

脂肪交雑などの肉質を重視する黒毛和種肥育では、ビタミンAを適正に制御する飼養管理が一般的に行われており、β-カロテンを多く含有する飼料イネの利用が敬遠されています。そこで、広島県立総合技術研究所では、西日本農業研究センター、株式会社タカキタ、広島県酪農業協同組合及び岡山大学との共同研究によって、優れた耐倒伏性を有する極短穂型飼料イネ品種「たちすずか」を活用し、立毛貯蔵によりβ-カロテン含量が低く、栄養価の高い肥育牛向けホールクロップサイレージ（WCS）を開発し、黒毛和種去勢牛の短期肥育技術を確立しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「たちすずか」を立毛貯蔵して完熟期に収穫・調製した WCS は、黄熟期に収穫・調製した WCS に比べ、β-カロテン含量が低く、乾物中の可消化養分総量が高くなりました。
2. 立毛貯蔵した「たちすずか」の WCS 調製（11月下旬以降）には、低温でも増殖し、カビ・酵母の抑制に効果を発揮する乳酸菌製剤「畜草 2 号」（雪印種苗（株））を添加しました。
3. 「たちすずか」 WCS の発酵 TMR への混合割合（乾物当たり）は、肥育前期（9～12ヶ月齢）に 25%、後期（13～24ヶ月齢）に 15%とし、2～4週間程度発酵させて保存性を高めてから、1日1回給与の完全不断給与にしました。
4. 「たちすずか」 WCS 混合 TMR 区（TS 区）は、イナワラを粗飼料とする TMR 区（RS 区）に比べて、乾物摂取量や日増体量が多い傾向にあり、肥育前後期を通じた飼料効率が有意に高く、24ヶ月齢出荷の枝肉成績は、TS 区（5頭）の枝肉重量が 460.9kg、BMS No.が 8.2 であり、良好な成績が得られました。



図1 立毛貯蔵した「たちすずか」の収穫

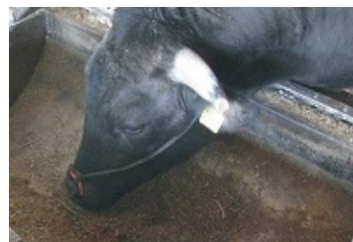


図2 TMR採食の様子



図3 「たちすずか」 WCS混合 TMRを給与した試験牛の枝肉断面

☆ 活用面での留意点

1. 極短穂型飼料イネ品種「たちすずか」は、立毛貯蔵時の積雪により倒伏する恐れがあるため、積雪の少ない地域で栽培することが望ましい。
2. 詳しくは、広島県立総合技術研究所畜産技術センター飼養技術研究部 福馬敬紘（Tel 0824-74-0331）にお問い合わせください。